

令和8年度 南区まちづくり推進経費事業(案) 概要説明書							資料2-1	
テーマ	No.	事業名	担当課	新規 継続 拡充	事業概要	予算額	(参考) R7予算	
地域の魅力を活かしたまちづくり	1	デジタルでつなぐ“たからもの”活用事業	総務企画課	継続	日々の暮らしの中で気づかない「日常に埋もれた魅力」や「未来につなげたい地域のたからもの」など、市民の視点で写真としてInstagramなどのSNSに投稿し発信してもらうコンテスト企画を実施。投稿には指定のハッシュタグを付けてもらい、集まった写真を通じて、まちの魅力や新たな発見を共有・発信する。	220	1,035	
	2	地域資源活用事業	総務企画課	継続	南区の特産品や歴史・伝統文化などを活用した体験型イベントの実施により、魅力を発信して、南区の農漁業や歴史・伝統文化への認知度を高める。親子での収穫・調理体験などを通じ、食の大切さや農の役割等について学習し、食農教育を推進する。	360	360	
	3	南区ノベルティグッズ製作事業	総務企画課	継続	南区シンボルマークや南区キャラクターをあしらったノベルティグッズを製作し、南区で実施するイベント等で配布することで区民に視覚的にアピールする。	200	400	
住民、事業者、行政の協働による自主自立のまちづくり	4	美化活動啓発事業	総務企画課	継続	夏休みの課題として、小学生からごみステーションの管理やごみ問題等に関する啓発ポスター作品を募集し、優秀作品には表彰及び市ホームページ等で広報する。また、最優秀賞作品によるポスターを製作し、ごみステーション美化の啓発活動の一環として地域に配布する。	420	420	
	5	南区“いきいき”地域連携事業	総務企画課	継続	「南区を自然でつなぐ実行委員会」が主催する穴掘り大会における大会運営費の一部を区の負担金として支出するもの。市民参加型のイベントによる地域交流に加え、実行委員会内のつながりを強化することで、次世代の担い手育成につなげる。	100	200	
	6	地域コミュニティづくり支援事業	総務企画課	継続	持続可能な自主自立のまちづくり活動を推進するため、町内自治会や地域のまちづくり団体等が主体的かつ継続的に実施する地域コミュニティの活性化に向けた取り組みに対し、申請のあった事業を審査・採択のうえ、補助金を交付する。	3,441	4,041	
	7	南区まちづくり懇話会	総務企画課	継続	区民との協働によるまちづくりを推進するために、南区まちづくり懇話会を設置し、「南区のまちづくり取組方針」に基づく区の特性を生かした魅力あるまちづくりに関する事項についての幅広いご意見を伺い、区のまちづくりの取り組みに活かしていく。	203	312	
	8	クリスマスイルミネーション連携事業	富合まちセン	継続	例年開催されている富合商工会青年部主催のイルミネーションイベントと連動して、アスパル富合を装飾することで、更にイベント内容を充実させる。また、開催初日の点灯式イベントでは、多くの集客が見込まれることから、まちづくりセンターでも来場者が楽しめる企画を実施する。	700	1,200	
	9	地域とつくるまちづくりイベント事業	南部まちセン	継続	ナゾキディスカバー(クイズラリー)を開催し、小学校区内に設置したチェックポイントにて二次元コードを読み取り、ナゾキをしながらまち歩きを行う、クイズラリー形式のイベント。地域団体と協働し、地域や防災に関するクイズを作成し、地域愛醸成につながるきっかけづくりを行う。	190	200	
	10	わがまち未来アイデアコンテスト	南部まちセン	継続	こどもたちの地域へ対する想いや視点について作品募集を行い、次世代の担い手であるこどもたちに、自身が住むまちについて考える機会を創出する。応募作品はコンテスト形式で審査し、入賞作品は表彰式を行うとともに、冊子として地域の方へ「こどもたち目線の地域」を共有し、今後の地域活動のヒントとしてもらう。	730	966	
	11	鮑田カップ2026(ポッチャ大会)	鮑田まちセン	継続	地域コミュニティの活性化および生涯スポーツの普及を目的として、「ポッチャ大会」を開催する。町内自治会、スポーツ協会、小学校、ささえりあ等、地域の多様な団体と連携しながら企画・運営を行うことで、団体間の横のつながりを強化し、地域全体の連携体制の構築につなげる。	126	180	
	12	城南地域ブランド力向上推進事業	城南まちセン	継続	若い世代のまちづくりへの参画と、地域を牽引する次世代リーダーを育成するとともに、SNSなどのあらゆる広報媒体を活用し城南町の知名度を高め、歴史・文化・食・産業など魅力ある地域資源を活用した地域活性化を図る。	1,626	2,171	
	13	地域緊急課題対応事業	総務・まちセン	継続	年度途中に突発的に発生した地域課題、地域ニーズについて、南区役所として対応できるための経費を計上する。次年度予算を編成して課題を解決するのではなく、課題が出てすぐに解決することで地域のまちづくりの機運を逃さず活動につなげることができ、自主自立のまちづくりが促進される。	2,870	2,562	

令和8年度 南区まちづくり推進経費事業(案) 概要説明書							資料2-1	
住民の幸福度を高めるためのまちづくり	14	南区地域包括ケアの推進事業	福祉課	拡充	南区地域包括ケアシステム推進方針に基づく事業を展開する。 (1)介護予防普及啓発:南区オリジナル動画の活用による健康教育を推進、(2)-1 医療・介護・福祉分野の連携強化:高齢者入居施設等での看取り支援専門職派遣事業など、(2)-2 人生会議の普及啓発:セミナー及び第6回人生会議の日開催、(3)認知症について正しい知識の普及啓発:映画上映や展示ブースなどのイベントの開催	910	1,300	
	15	南区管内子育て支援ネットワーク応援事業	保健こども課	継続	各校区で子育て支援ネットワーク会の開催や、子育て支援団体等の活動を支援することで、関係者同士がつながり、子育て支援ネットワークの活性化を図る。子育て支援活動の実施により、親子が子育てを楽しむことができ、ソーシャルキャピタルの醸成につながる。	485	483	
	16	口腔ケア及び生活習慣病の予防等に関する啓発事業	保健こども課	継続	歯と口の講話等や口腔ケア体験等を実施し、区民の口腔衛生や生活習慣病に対する関心を高めるとともに、地域の企業や地域団体等及び歯科医療機関と連携し、区民の健康づくりを支援するための環境整備を図る。	1,253	1,356	
	17	eスポーツによる健康まちづくり事業	天明まちセン	継続	地域の高齢者を対象に受講者を募集し、「eスポーツ体験会」を開催する。 社会福祉協議会やささえりあとの連携を強め、地域で核となる人物の発掘を行い、eスポーツによる新たな繋がりを構築することにより独居世帯の外出の機会をつくる。高齢者が人とつながることで孤立の解消やコミュニケーションの増加による健康増進を図る。	526	574	
	18	モルック交流会事業	天明まちセン	継続	地域公民館や小学校に出向き、高齢者及びこどもを対象に受講者を募集し「モルック体験」を開催する。高齢者とこどもがモルックを通じて交流することで、世代間の交流ができ、担い手の発掘、育成に繋げる。	142	112	
防災・防犯力の向上によるまちづくり	19	南区防災バスツアー	総務企画課	継続	熊本地震を風化させないという目的で始めた事業。参加者からは「生まれて間もなかったので覚えていないが、被害の大きさを知ることができた」「防災の大切さ、備えの大切さを学んだ」などの意見をいただいている。市民の防災減災の意識向上に繋がるため、時代のニーズに沿った手法で防災バスツアーを継続事業として実施する。	526	526	
	20	南区防災expo(仮) ・南区役所会場 ・幸田まちセン会場 ・鮎田まちセン会場	総務企画課	新規	熊本地震から10年近くが経過し、市民の災害に対する意識が薄れていることもあり、防災意識の低下が懸念されている。熊本地震の記憶の風化を防ぐとともに、「参加」と「協働」により市民の防災意識の向上を図るため、体験型防災イベントを開催する。地域関係団体が一体となり、連携して活動を行うことで、地域防災力の強化を図る。	1,997	—	
	21		幸田まちセン	新規	令和8年度(2026年度)は、熊本地震発災から10年の節目を迎えることから、防災かるた大会や車中泊体験等を通じた防災イベントに加え、地域協働によるマルシェや食品ロス削減をテーマとしたイベントを開催することで、防災意識の向上と地域コミュニティの活性化を図る。	952	—	
	22		鮎田まちセン	新規	熊本地震から10年を迎える節目に、災害の記憶を風化させず、地域の防災力を高めることを目的として、子どもから大人までが楽しみながら防災を学べる体験型イベントを開催する。企画にあたっては、鮎田防災士の会をはじめとする地域団体と会議を重ね、地域の実情に即した防災プログラムを構築する。	1,623	—	
	23		南区こどもの交通安全対策事業	土木維持課	継続	南区のキャラクターを「止まれ」などの文字と一緒にプリントしたもの(グラフィックサイン)を横断歩道付近に設置し視覚的にアピールすることで、学童の交通安全の意識を高めるとともに、南区キャラクターの認知度向上を図る。	200	200
総計	21事業					19,800	—	

気になる事業・項目に関するご質問・ご意見

◆事業名
わがまち未来アイデアコンテスト （南部まちづくりセンター） 継続
◆背景・課題
若い世代の地域への関心が薄れ、次世代の担い手が不足する中、まちづくりには子どもや学生の感性が十分に活かされていない状況がある。
◆必要性・目的
次世代を担う子どもたちがまちづくりの主役であるという意識を育み、社会参加のきっかけをつくる取組みを進めている。子どもたちの考えを地域に伝えることで、世代を超えて生き生きと暮らせる地域づくりと、地域コミュニティの活性化につなげていく。
◆取組内容（案）
子どもたちの地域へ対する想いや視点について作品募集を行い、次世代の担い手である子どもたちに、自身が住むまちについて考える機会を創出する。応募作品はコンテスト形式で審査し、入賞作品は表彰式を行うとともに、ポスター等にして地域の方へ回覧し「子どもたち目線の地域」を共有することで、今後の地域活動のヒントとしてもらう。 ・募集対象 ：南部まちづくりセンター管内の小中学校（6小学校、3中学校） ・募集期間 ：8月下旬～9月上旬（夏休みの自由課題として募集） ・審査会 ：10月頃（審査員は各校区自治協会長等を予定） ・表彰式 ：11月頃（入賞者、各校区地域役員等を招待） ※R7年度実績：小学生から921点、中学生から83点の応募があった
◆期待される効果
・地域の魅力発見や地域愛醸成につながる。 ・子どもたちの地域へ対する想いや視点を地域に知ってもらうことで、今後のまちづくりのヒントにつながる。
◆懇話会委員からのご意見（地域の視点からのアイデアやご意見をお聞かせください）

◆事業名
南区地域包括ケア推進事業 （福祉課） 拡充
◆背景・課題
2025年に全ての団塊の世代が後期高齢者となり、2040年には高齢者人口がピークとなると予測されている。また、その2040年には高齢者の約3.3人に1人が認知症または軽度認知症になる可能性があると言われている。今後も高齢者支援は地域の中で積極的に取り組む必要がある。
◆必要性・目的
高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、「地域包括ケアシステム推進方針」の4つの柱に基づき、様々な取組みを進めている。 介護予防を通じて高齢者の自立を支え、医療・介護・福祉の連携により、人生の最終段階まで希望に寄り添える体制づくりを目指す。また、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりのため、住民への正しい理解の促進に取り組む。
◆取組内容（案）
①介護予防普及啓発 オリジナル動画や独自の資料を活用し、体操・口腔機能・栄養改善など、自宅でできる介護予防を推進。 ②医療・介護・福祉分野の連携強化 高齢者入居施設への看取り支援専門職の派遣を行うほか、医療・介護・福祉分野の職員同士の交流を目的とした研修会を年1回程度開催。 ③人生会議の普及啓発 人生会議セミナーの継続、第6回南区人生会議の日開催 ④【 拡充事業 】認知症について正しい知識の普及啓発 認知症への理解を深めるため、映画上映や展示・体験・相談ブースを含む啓発イベントを開催し、幅広い世代に向けて正しい知識の普及を図る。
◆期待される効果
・健康な高齢者の増加により、介護資源の不足を解消。 ・人生の最終段階の意思表示が進むことで、医療資源の無駄を削減。 ・認知症になっても、その人らしく地域で暮らし続けられる環境を整備。
◆委員の皆さまから地域の視点からの新たなアイデアや改善に向けたご提案をお聞かせください

◆事業名
南区防災expo（総務企画課・幸田まちセン・飽田まちセン） 新規
◆背景・課題
熊本地震から約10年が経過し、市民の防災意識や支え合いの気持ち（共助意識）が薄れつつあり、災害時の備えや地域の助け合いの力が弱まることが懸念されている。
◆必要性・目的
熊本地震から10年を迎える節目にあたり、災害の記憶を風化させず、地域の防災力を高めることを目的として、南区役所・飽田まちセン・幸田まちセンの各会場にて、こどもから大人までが楽しみながら学べる防災体験型イベントを開催する。 これらの体験を通し、参加者の防災意識の向上を図るとともに、地域全体の防災力及びコミュニティの強化を目指す。
◆取組内容（案）
■南区役所会場 ・南区内婦人会等による炊出し訓練、親子で防災食作り、防災車両展示、災害体験ブース（地震・水害VR体験、煙体験、避難所体験等）など ■飽田会場 防災体験イベント（1日・2部構成） ≪1部：避難所運営委員向け≫ ・避難所運営準備など ≪2部：地域住民向け≫ ・VR消火体験・水圧体験・防災食調理・写真洗浄・おもしろカー移動遊び場・避難所体験・熊本地震写真パネル展示・煙体験 など ■幸田会場 ・防災かるた大会、車中泊体験、炊き出し体験等を通じた防災イベント ・ポッチャ・モルック体験、地域共同によるマルシェ、食品ロスイベントなど
◆期待される効果
防災を学べるイベントを開催することで、市民への防災・減災に向けた啓発を図る。また、当時生まれていなかったこどもたちにも語り伝えていくことで、更なる「防災意識」「共助意識」の醸成につなげるとともに、地域コミュニティの活性化を図る。
◆委員の皆さまから地域の視点からの新たなアイデアや改善に向けたご提案をお聞かせください